



伊東市のあんじん通りに再現された昭和39年の地下鉄丸の内線「新中野」。出入口でロケーションが行われた。

## 昭和30年代にタイムスリップ

### 映画ロケで街頭再現 伊東

伊東市のあんじん通りと玖須美温泉通りを昭和39（1964）年の東京

・中野の商店街「鍋屋横丁」にみたく、浅田次郎原作の映画「地下鉄に乗って」（篠原哲雄監督）の撮影が進められている。

地下鉄丸の内線「新中野」の出入口も再現されるなど、懐かしい昭和30年代にタイムスリップしたかのようだ。

あんじん通りに設けた地下鉄出入口は空き地を掘り、数段の階段も設けた。左右には「喫茶店」と「ミルクスタンド」を配置。バス停「鍋屋横丁」のわきにはシー

ンに登場する公衆電話ボックスも置かれた。

東京オリンピックが開催された年とあって、商店街にはちようちんがつるされ、「百貨店」は「祝 記念大売り出し」をPR。「八百屋さん」

や「映画館」も設けるなど、セットだけで約2千万円をかけたという。

地下鉄を降りた主人公が昭和39年などにタイムスリップし、反目を続けてきた父の若き日の生きざまと意外な事実に向き合う姿を描く。家族のきずなや男女の愛を描いた人間ドラマで、堤真一、岡本綾、常盤貴子、大沢

たかおが出演。

小滝祥平プロデューサーらによると、関東地方周辺の20市以上を調べ、当時の鍋屋横丁の風情を残していた伊東市に白羽の矢を立てた。店主や通行人などのエキストラで、1日最大100人余りの市民に協力してもらった。

約2時間の映画のうち伊東市の場面は10〜15分ほど登場する見込み。全国公開は来年秋を予定。その前に「撮影場所を提供してくれるなど、お世話になったお返し」と、伊東市で特別上映会を開きたいという。